

令和7年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立嶺町小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・休み時間等も学習と関連した取り組みを継続して行ったことで、どの項目においても体力が向上している傾向がある。
- ・年度初めに各学年が系統的な指導を意識し、当該学年で何を身に付けるべきかをおさえ、指導にあたることができた。
- ・一斉一律な課題解決ではなく、児童が個々の実態に合った課題設定を行ったり、場を選択したりしながら学習を進めていくことができるようになってきた。

(2) 課題

- ・児童がより運動の楽しさを味わうために、指導に生かすための評価が必要である。児童一人一人の学習状況を把握し、適切に支援する方法を身に付ける必要がある。

2 東京都統一体力テストの結果分析

(1) 結果（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
低	男女ともに、50m走とソフトボール投げが全国平均を下回っている。長座体前屈と立ち幅跳びは全国平均並か、わずかに上回っている。	男女ともに長座体前屈が全国平均を上回っている。男女ともに、20mシャトルランが全国平均をわずかに下回っている。	男子はソフトボール投げ、女子は上体起こしが全国平均をやや下回っている。
中	男女共に50m走の結果が、全国平均をわずかに下回っている。また、女子のソフトボール投げも全国平均をやや下回っている。	男女ともに長座体前屈が全国平均を上回っている。 女子は、20mシャトルランが全国平均をわずかに下回っている。	男子はソフトボール投げ（巧緻性・投球能力）、女子は上体起こし（筋パワー・筋持久力）が全国平均をやや下回っている。
高	男女ともに全校平均同等、長座体前屈が全国平均をやや上回っている。	男女ともに全校平均同等、長座体前屈が全国平均をやや上回っている。	男女ともにソフトボール投げが全国平均をわずかに下回っている。

(2) 分析（観点別）

①低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・走力が低い児童が多く、それによって他の技能も低い傾向にある。 ・柔軟性や瞬発力は一定の水準に達している。 ・遠くに投げするための動きなどが身に付いていない児童が多い。	・意識調査の結果では、「友達に教えてもらってできるようになった」と回答した児童が少ない。 ・意識調査の結果では、「できるようになったことがない」と回答する児童も中・高学年よりも多く、技能ポイントなどを知らない児童が多い。	・意識調査の結果では、「体育の授業が楽しい」と答える児童が9割を超え、意欲的に学んでいる。 ・休み時間や放課後等に体を動かす児童が中・高学年よりも少なく、体育の学習でしか、運動機会がないという児童も少なくない。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・運動経験の差による基本的な技能の差が見られる。 ・どのようにすれば技能が身に付くかが分かっていない。自分の課題を見付け、場や用具の使い方を十分に理解して活用し、解決する経験が必要である。	・運動に必要なこと、うまくいくために必要なことなど考えた事を友達に伝えることができる時もある。 ・自己の課題解決に向けて、練習の場を選択したり、自分にあった練習方法を工夫したりする力を身に付ける必要がある。 ・課題に対する解決方法を伝えたり、教え合ったりすることに課題が見られる。	・安全に気を付けて運動を行うことはできている。 ・普段の運動経験なども含めた技能差により、運動へ主体的に取り組む姿勢に差がある。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<5年生> ・基礎的な技能は身についている児童が多い。 ・どうすればできるかが「わかる」段階までは多くの児童ができています。一方で各領域の技能が「できる」までにはいかない児童が多い。 ・観察カードや学習カードへの記入から、ポイントを理解している児童が多い。 <6年生> ・基礎的な運動能力に課題がある。(筋力・敏捷性) ・ポイントは理解しているが、運動に繋げることができない児童も少なくない。	<5年生> ・自分の能力に適した課題を見付け、できるようになるための場を選んだり、活動を工夫したりすることが少しずつできるようになってきた。 ・友達と技のポイントを伝え合ったり、チームでよりよくするために話し合ったりすることができる一方で、考えたことや、アドバイスを友達に伝えることが難しい児童もいる。 <6年生> ・気付いたことを他者に伝えることができるようになってきた。 ・自分の課題を把握し、解決に向けて取り組むことができる児童がいるが、自分に必要な課題が何かを具体的に分かっていない児童も少なくない。	<5年生> ・器械運動など「できる」「できない」がはっきりする運動ではできる技に取り組むが、苦手な技には挑戦しない児童が多い。 ・運動に進んで取り組み、きまりを守って運動に取り組むことができる。 <6年生> ・不得意な運動に対して、粘り強く取り組むことが苦手な児童が多い。 ・好きか、嫌いかで運動に取り組む意欲が変わってしまう児童も少なくない。 ・きまりを守って運動に取り組むことができる児童が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・運動遊びの特性に応じた楽しさを味わわせるため、児童が成功体験を得やすいように、課題やルール、用具などを工夫する。 ・投動作を習得するため、紙鉄砲など、遊びを通して学べる工夫を取り入れていく。また、運動量の多い活動を多く取り入れる。	・児童が自分自身の課題を把握したり、解決方法を考えたりすることができるように学習カードを活用する。学習カードは抵抗なく書けるよう、記述を少なくし、選択肢から選べるようにする。 ・友達のよい動きを見付けたり、自分が工夫した動きを動作や言葉で伝えたりする時間を設定する。	・児童がすすんで運動遊びに取り組めるように、場や行い方を工夫する。 ・楽しく運動遊びを行うためには、規則やルールを守り、友達と仲良く運動したり、勝敗を受け入れたりすることが大切であるため、守れている児童を取り上げ、全体の前で称賛していく。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・学習カードの工夫などをして、運動のポイントを押さえることで、自己の課題を見付けられるよう指導する。 ・具体的数値を計測したり、ICT機器を活用して動きを撮影したりすることで児童自身が課題を見付けられるようにする。	・個の課題にあった活動ができるよう、教師からのアドバイスや、練習の場を提示し、その中から選べるようにする。 ・授業の中で運動のポイントを言語化したり、掲示したりすることや共通認識をする場を設け、児童同士で伝え合ったり、教え合ったりできるようにする。 ・自分の考えをもったり、友達に伝えたりするために学習カードを使用する。	・易しい場や課題から運動を始めたり、場を工夫したりすることによって個人に合った運動に取り組み、すべての児童が成功体験を積めるようにする。 ・児童の「やってみたい」を引き出す単元計画を作成する。 ・児童自身が自己の課題を段階的に設定し、活動を調整できるようにし、目標の設定の仕方、スモールステップで上達できるようなポイントを具体的に示す。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・単元のゴールイメージをもてるよう、動画を視聴してポイントを見付ける活動を単元の最初に行う。 ・技能ポイントを明確にし、獲得できるような感覚づくりを行う。	・課題を解決するために必要な方法、手立てを充実させる。また、それらを課題に応じて提示していく。 ・「身体の使い方」に着目して、技能を向上させるために何が必要かを考えられるようにしていく。	・「できそうだ」「やってみたい」「上手になりたい」と思えるような単元全体のゴール設定を心掛ける。 ・粘り強く取り組むことができるよう、課題解決の時間を確保する。